

## 令和4年度 経営協議会学外委員からの主な意見と本学の対応状況

○第1回（令和4年5月31日（火）開催）

### 【国立大学法人評価（第3期中期目標期間終了時評価）に係る報告書 達成状況報告書（案）、実績報告書（案）について】

#### 学外委員からの意見

- ・達成状況報告書において、例えば、科学研究費助成事業申請数を10%向上させる計画に対し、目標の数値の実績に加え、成果を上げた取組について記載してもよいのではないか。また、戦略性が高く、意欲的な目標・計画である女性教員比率など、目標値を達成できなかった計画に対する実績は、その目標設定が極めて高かったことを記載した方がよいのではないか。

#### 本学の対応状況

ご意見を踏まえ、成果を上げた取組の記載について確認するとともに、目標とする数値が、国や社会からの要請を受けて、当初から極めて高い目標として設定したものであることが伝わるよう追記した。

### 【役員報酬規則等の一部改正について】

#### 学外委員からの意見

- ・学長の業績を特筆すべき業績とする判断は、学長選考・監察会議における、学長の業績評価を踏まえ行うなど、今後検討が必要ではないか。

#### 本学の対応状況

ご意見のとおり、特筆すべき業績とする判断基準について検討を行っていきたい。

○第2回（令和4年6月28日（火）開催）

### 【国立大学法人ガバナンス・コードに係る令和4年度の適合状況等に関する報告書について】

#### 学外委員からの意見

- ・補充原則3-1-1②の判断理由については、原案の記載に加え、過去に行った3キャンパスの視察や、学長の業績評価を手交する際に行う意見交換会についても、記載してはどうか。

#### 本学の対応状況

ご意見を踏まえ、施設見学の実施や、会議の中で意見交換を行っていることについて追記した。

### 【令和5年度の医学部における入学定員について】

#### 学外委員からの意見

- ・医師確保は大変重要であり、富山県の就職率は、富山県特別枠、地域枠ともに高い水準にあり、大変ありがたい。医学科全体としても富山県の就職率が上がることを期待している。

#### 本学の対応状況

医学部医学科においては、「地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増」に基づき、計 10 名の入学定員を臨時的に増員している。令和 5 年度についても、文部科学省・厚生労働省より、令和 4 年度と同様に臨時の定員増員を認める旨通知があった。

臨時増による定員分は、総合型選抜「富山県特別枠」として学生募集をしており、いずれの年度も定員を満たしている。「富山県特別枠」の学生に対しては、富山県から入学料及び授業料相当額に加えて、月額 10 万円の修学費が貸与され、卒業後は、ほとんどが富山県内の病院に就職し、地域医療に貢献している。これまでの実績と、地域における医師確保の重要性に鑑み、富山県からの要望も踏まえて、引き続き入学定員の確保を継続したいと考えている。

富山県での就職率を上げるための医学科全体での取り組みとしては、これまで本学科が「地域と世界で活躍できる医療人を養成する」という理念を持って地域医療人材の養成に努めてきた実績が評価され、本学科と同様のミッションを持つ新潟大学医学部と連携して実施する事業、文部科学省の令和 4 年度大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に選定された。

本学が取り組む事業では、学生指導を含めた地域を守る医療人の循環型かつ継続的な育成を行うことを出口戦略としており、そのために既存の教育カリキュラムを見直し、入学早期からの地域医療に関する講義や実習を通じて、多職種協働を含めた地域を守るマインドの醸成することで、地域医療プロフェッショナルリズムを身に付けさせる等、4つのコンピテンシーを掲げて地域を守る総合的な能力を持った医師を共同で養成する。

本事業では地域枠学生等を対象としたアドバンスドコースに加え、全医学生必修のエッセンシャルコースが設けられており、本事業を通じて地域を守る医療人材として富山県で活躍する卒業生が増えるものと期待している。

## 【令和 5 年度概算要求事項について】

### 学外委員からの意見

- ・カーボンニュートラルについては、全国、世界での展開に加え、地域の企業等の方向性を確認し、社会実装において富山大学が果たす役割についても戦略的に考えていくべきではないか。

### 本学の対応状況

教育研究組織改革の構想においては、まずは先端的研究や国際展開に基づく社会実装部門を強化し、企業とともに継続的な取組を続けていく。

このようなサイクルができあがれば、将来的に、例えばバイオマスや廃物資源の活用等において、自治体や地域のモデル的な取組として、地域の企業とも連携した都市・地域全体のカーボンニュートラル実現に発展させていくことも可能と考える。

このほか第 4 期においては国からの運営費交付金「ミッション実現戦略分」を活用してカーボンニュートラルへの取組を重点事項の 1 つとして行っていくが、この中のスマートシティ実現部会では、県内自治体や地域のエネルギー関連企業の協力を得て、再生エネルギー供給最適化、公共交通と都市の低炭素化に向けた調査研究などを進めていくほか、地域自然活用部会では、立山山麓などを対象にした県内地熱資源の探索など地域の自然を活用したカーボンニュートラル実現を目指していく。

これらに関し企業や自治体との連携事例として、主に以下の事業を中心として大型研究費を獲得す

るなどしており、活発な研究活動を進めていく。

- ・二酸化炭素からの化学製品（PET 等）やエネルギー製品の製造
- ・カーボンリサイクル CO2 地熱発電技術
- ・富山県の水資源管理による炭素吸収・貯蔵対策の提案

○第3回（令和4年11月22日（火）開催）

**【令和4年度富山大学補正予算（案）について】**

**学外委員からの意見**

- ・ 管理部門に対しても評価を踏まえて再配分し、例えば仕事がしやすい環境づくりなどのような、職員のモチベーションが高まる仕組みを考えてはどうか。

**本学の対応状況**

ご意見のとおり、管理部門に対する評価を踏まえた予算配分についても、検討を行っていきたい。

**【令和5年度概算要求等について】**

**学外委員からの意見**

- ・ 地域の高等教育として、全国拠点校でもある富山高等専門学校の強みを活かし、他にはないような連携を今後検討してはどうか。

**本学の対応状況**

**1. データサイエンス教育における連携**

データサイエンス教育は、本学と富山高等専門学校（以下「富山高専」という。）が共に重点的に取り組んでいる。令和3年度に、県内高等教育機関等の教員のデータサイエンス教育能力の向上のため、本学主催で実施した「データサイエンス・オンラインFD」では、富山高専から教員の参加があったとともに、小熊博教授に講師として登壇していただいた。

本学としては、引き続き、富山高専とデータサイエンス教育等に関するノウハウや情報の共有を図り、県内のデータサイエンス教育の普及・発展に努めていきたい。

**2. 大学コンソーシアム富山における単位互換制度による連携**

県内の高等教育機関で組織する「大学コンソーシアム富山」では、参加機関による単位互換制度を構築しており、令和4年度は、本学が単位互換科目として提供する「データサイエンスの実践」において4名、「富山の地域づくり」において11名の富山高専の学生が履修した。今後も総合大学として、富山高専の強みを更に伸ばす理系科目、富山高専にはない文系科目の両方を単位互換科目として提供し、教育連携を深める予定である。

また、「学生による地域フィールドワーク研究助成」事業や「学生地域リーダー塾」事業などが行われているほか、平成27年度に本学が「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に選定され、令和元年度に補助期間が終了した県内高等教育機関、富山県、県内市町村、企業等と「地域に

における雇用創出，若者の地元定着率の向上」を目的とする事業の取組の中で成果のあった事業については，各高等教育機関で継続して実施しており，今後もより発展的に取り組んでいけるよう検討したい。

### 3. 人材育成事業における連携

技術基盤能力の向上と，国際競争力を強化できる多面的な発想や知識を持った意欲的な中核的技術者の育成を目的とした人材育成事業「次世代スーパーエンジニア養成コース」を平成25年度から富山高専と実施している。産業界の協力を得て，本学及び富山高専の教員が講師を務め，本学の最先端研究，富山高専の実践的技術教育，産業界のモノづくりや企業経営視点により「専門分野の深み」を学んだスーパーエンジニアを養成している。

## ○第4回（令和5年1月24日（火）開催）

### 【令和5年度富山大学予算編成方針（案）について】

#### 学外委員からの意見①

- ・光熱水費の高騰の対応として，照明のLED化を図るなどの設備対策をしてはどうか。

#### 本学の対応状況

前中期目標期間繰越積立金や目的積立金等を活用した省エネ設備整備の検討を進めたい。

#### 学外委員からの意見②

- ・日本全体を取り巻く情勢が変動の時期を迎えていることから，富山大学が地域社会を率先垂範し，課題解決に向け取り組んでいく姿勢を記載してはどうか。

#### 本学の対応状況

いただいた意見を参考に，予算編成方針を下記のとおり修正した。（経営協議会後の役員会で承認済み）

- ・「本学をとりまく情勢は変動の時期を迎えており」  
→「本学」を「我が国」に変更
- ・「課題を解決するためには（中略）各局が持っている叡智を生かした形で総合的な解決策を見出していくことが極めて重要である」  
→「総合的な解決策を見出していく」を「総合的に取り組んでいく」に変更

## ○第5回（令和5年3月22日（水）開催）

### 【学部及び大学院の改組等について】

#### 学外委員からの意見

- ・理学部及び経済学部のプログラム制について，2年進級時にプログラムを選択する際，特定のプログラムに希望が集中した場合どうするのか。また，希望のプログラムを選択できなかった学生のモ

モチベーションが下がらないような対応をしていただきたい。

#### **本学の対応状況**

経済学部では、プログラム選択時にあらかじめ第2希望、第3希望まで照会し、GPAや志望書等により、プログラム所属を割り当てることを検討している。また、希望のプログラムを選択できなかった学生のモチベーション維持については、他プログラム科目の履修により、希望していたプログラムの科目をある程度履修することを可能とする。

理学部では、1年次に理学部共通科目である概論科目にて各プログラムの教育研究内容を学修させ、理学部の各分野に広く興味を促したうえで、プログラムの希望調査を実施する計画である。入学時にプログラムへの配置はプログラムの希望と共に学業成績も考慮される旨を伝えるとともに、プログラム希望調査の際には、順位をつけて複数のプログラム希望を照会することで、第一希望でない場合でも一定の興味を持つプログラムに所属できるよう配慮し、学修のモチベーション維持を図りたいと考えている。

その他、両学部共に、転プログラムを可能とする制度を設けることにより、学修意欲の低下防止につながると考えている。また、特定のプログラムに希望が偏る状況が複数年継続する場合は、プログラムの定員の見直しを検討し、学生のニーズに対応していく予定である。

#### **【Saito Vision 2021 実施状況の自己評価について】**

##### **学外委員からの意見**

- ・「当初の想定以上に実施した」ことを客観的に評価できるよう、Action Planに数値目標を設定してはどうか。

##### **本学の対応状況**

現在作成中の”Saito Vision 2023”（6/27 経営協議会附議・公表予定）では「Action Plan」において定めた各種目標に密接に関連する第4期中期計画の評価指標を“連動 KPI 指標”として定義する。また、これに加え独自に設定した KPI 指標を作成し、これらを客観的評価指標としたいと考えている。